

KANUMA NO MEISHO

# 鹿沼の名匠



## 戸室 忠男

とむろ

ただお



戸室 忠男

◆ 建築大工

建築大工が造るのは「人が住む家」。間取り決めから建設までを担います。「お客さんの思い出になる、良い家を造れたらうれしいね」と語る戸室さんが手掛ける住宅は、木を生かした美しさと耐久性を兼ね備えています。

「規矩術」は、L字型のさしがね1本で正確な角度や曲線までも割り出す、伝統的な建築技術の一つ。釘を使わずに寸分のくらくなく木をつなぎ合わせる「継手」や、角度を付けて接合する「仕口」などは、「規矩術」の緻密な計算のもと施されます。数寄屋造りなどの和風建築は木材がふんだんに使われ、こうした大工の技が見えるのが特徴です。

道具は職人の手の延長。馴染み、使いこなせて初めて一人前です。また、その道具を整えるにも職人の技が求められます。

特に鉋は「鉋3年、研ぎ8年」といわれ、使用しながら調整し、1日

に何度も研ぎが必要です。休業時代は手にまめができるまで研いだそうです。その種類もさまざま、曲線や溝を削るためのものなど、用途に合わせて使い分けます。

古民家のリフォームも手掛け、その現場では昔の驚くような工法や、職人の技に触れることがあります。「まだまだ勉強中の身。覚えること、学ぶことは山ほどあります」と語る戸室さん。梁を見せるなどの伝統的な工法を用い、現代に合う「木が見える家」を造りたいと、たゆまぬ挑戦を続けています。

中学生のときに見た、大工たちの繊細な手仕事に感銘を受け、この道を志し45年。兄弟子たちと競いながら、仕事を覚えるのが楽しかったという戸室さん。現在は、現場で培った技術と経験を次の世代に伝えるべく、後進の育成にも力を注ぎます。

カ 鹿沼市